

5. 今月のトピックス「カンキツのカタツムリ類について」

カンキツでの発生種

カンキツではウスカワマイマイとオナジマイマイが発生し、主に果実が加害されます。両種とも成貝の殻径は 20mm 程度ですが、オナジマイマイの方がやや小型で殻高が低く、成貝の殻口が肥厚します。また、ウスカワマイマイの方が貝殻が薄い特徴があります。

本年は県内の東紀州地域で多発圃場が見られました。三重県での優占種は明らかではありませんが、東紀州地域ではオナジマイマイの発生事例が多いようです(写真 1)。



写真 1. オナジマイマイ幼貝

被害の様子と生態

被害が多いのは 8~10 月頃で、特に加害されやすいのは早生温州です。果皮に 1~6mm の不整形の白斑を生じ、大きい食害痕は中央部が陥没します(写真 2)。



写真 2. 果実の食害痕



写真 3. 果肉まで食害された果実

ひどい場合は果肉まで食害されることもあります(写真 3)。ナメクジ類による被害と酷似しており、食害痕で判別するのは困難なため、樹上、下草、敷草や石などの下で、生息の有無を確認する必要があります。成幼貝が浅い土中などで越冬します。春から秋まで活動・産卵しますが、夏の乾燥期等には殻口に膜を張って活動を休止します(写真 4)。



写真 4. 殻口に膜を張り、枝に固着したオナジマイマイ

幼貝初期は昼夜とも活動しますが、成長に伴い夜間活動性になります。ただし、雨天などは昼間も活動します。雌雄同体で、どの個体でも交尾により産卵し、浅い土中に数十個の卵塊を数回産下します。

発生しやすい条件

酸性土壌(pH6 以下)や湿潤な場所を好み、敷草をした圃場や草生栽培圃場で多く発生します。また、8~10 月に雨天が続くと発生が多くなります。

防除のポイントと注意事項

- 1) **圃場管理**: 一旦清耕栽培に切り替えたり、風通しや陽当たりを良くしたりするなど、圃場の地表面が乾燥するように工夫してください。また、冬期に中耕して越冬場所を破壊することも有効です。
- 2) **土壌酸度矯正**: 多発圃場で土壌 pH6 以下の場合、石灰施用等により酸度を矯正してください。
- 3) **薬剤防除**: かんきつ対象に銅水和剤やチオジカルブ剤、みかん対象にメタルデヒド水和剤などが登録されていますが、長期間の効果持続は期待できず、特に多発時は薬剤防除だけでは抑制が困難です。上記の耕種的防除と組み合わせた対策が重要です。